



港区立高松中学校 学校だより<第1号>

平成30年4月10日 校長 鈿持 利行

創立1949年(昭和24年) <高松中生のあたりまえ>推進校 港区高輪1-16-25

新年度の始まりにあたって

校長 鈿持 利行

暖かい春の陽射しのもと、爛漫の花に彩られて、いよいよ新年度が始まりました。101名の新入生を迎え、平成30年度は、全校生徒数295名でのスタートとなりました。新入生の保護者の皆様、お子様のご入学おめでとうございます。2・3年生の保護者の皆様、今年度もよろしくお願ひいたします。

入学式では、次のような話をさせてもらいました。私は、この高松中学校が、「今日が楽しく、明日が待ち遠しい学校」にしたいと、努力を続けていきます。そのためには、皆さん一人ひとりが「思いやりの心」を持つことが必要なことです。思いやりのあるやさしい人とは、相手の立場になってみることから始まります。これからの中学校生活を通して、人と人とのかかわりの大切さに気付いてもらいたいと願っています。人を尊敬する気持ち。大切にすること。仲良くしようとする気持ちが、なければ、本当の自立はありません。人は誰しも希望や喜び、そして悩みをもって生活しています。いつも自分のことだけを考えるのではなく、他の人のことを考え行動できたらどんなに素晴らしいでしょう。そして、友だちが困っていたり悩んでいたら、声をかけ相談に乗ってほしいのです。友だちをつくり、互いに学び合い、助け合っていくところに真の友情が生まれます。中学校は、集団生活を通して守らなければならない約束ごとや、いろいろな考えがあること。人との接し方や、協力し合う知恵。責任の果たし方など、将来にわたって生活していく上で、大切なことを学ぶところです。この高松中学校で多くの体験をしてみてください。知識として知っていても、実際に経験・体験がないと、知識が知恵として働きません。中学校の勉強は自分から学ぶ。人と交わって学ぶ。さらに、体験して学ぶ。ことが大切なのです。

新入生に限らず、学校はいろいろなことに挑戦し、失敗や努力をくり返しながらい、成長していくところであると思います。我々大人は、小さな成果や成長であっても評価し褒めることや、たとえ失敗しても努力を認め励ますことなど、時宜を逸さないことが大切です。生徒がそれをバネに諦めずに、あるいは新たに意欲をもって頑張れるよう、ご家庭でも見守り支えていただければと思います。生徒のことで、気にかかることなどがありましたら、どうぞご遠慮なく担任や学年の教員、または校長・副校長までご相談ください。今年度も保護者・地域の皆様には一層のご支援ご協力の程、よろしくお願ひいたします。

